

飼育支援のため自治体と連携している獣医師会と事業内容

中川美穂子報告

9 愛知県

地域	対象	会員名	活動内容	治療報酬	訪問指導講習会	行政の予算
愛知県 豊川市 H14年度	希望校 16	16名の 内 5名	治療と授業支援 総合学習推進事業費および豊かな心を育てる推進事業費のうちから各学校の裁量の範囲で手当する 現在、訪問飼育指導、随時の飼育相談、ゲストティーチャー派遣など全てふくめて1校2万円で全て面倒を見ている。 教育委員会は、これでよろしいかと言っている。	個人の裁量	学校の希望により行う H16年希望校数校	学校の裁量により、支払われる 1校2万円で行う。
愛知県 岡崎市 H16年	42校	42名	生活衛生課が、行う動物愛護事業（動物フェスティバル等）の一部で学校飼育動物関連も行う。学校飼育動物支援活動は現時点で具体化していない。 鳥インフルエンザ騒動では一般市民や学校関係者に対して市民セミナーを行い、100名を越える参加者があった。 H16年は動物フェスティバルで県獣委員長が市内小学校の研究報告をした。これからの期待したい。	個人の裁量	なし	生活衛生課内部の予算 120万円くらい
愛知県 安城市 H11年	20校	8名	教育センターの依頼で市獣医師会が飼育担当教員に学校飼育動物の講義を年1回2日間おこなっている。他の支援を提案しても教育委員会も飼育動物の意義を認めず、学校も反応が悪い。獣医師も見直しを求める声。議員をたのんだが、も一つである。	個人の裁量	担当教員に対する講義を年1回2日間	担当獣医師に講師料
愛知県 豊田市 H14年	60校	18名	市獣医師会が独自のプール金制度によって学校動物診療制度を確立し、無料診療、相談を行っている。学校の希望により、年3回程度の生活科の動物ふれあい授業を行う。校長の反応が芳しくないため、意気は低下しつつある。保健所の主催により獣医師と教員向けの合同勉強会が年1回開かれている。	無料	学校の希望により行う	保健所による合同勉強会の予算のみ